

# New Creators Competition 2011 展覧会企画公募 EXHIBITIONS

若手の展覧会企画者を対象としたCCC(静岡市クリエイター支援センター)の支援プログラムである「New Creators Competition 2011 展覧会企画公募」において、多数のご応募をいただきました。厳正なる選考の結果選出された2組の入選企画展を開催致します。今回の企画はそれぞれ「場」と「時」がテーマです。鑑賞者の心と記憶に残る展示をお楽しみ下さい。

## 『あなたはいま、まさに、ここにいる』

企画者：小田原のどか

## 『美術の時間』

企画者：高島亮三

2011年1月14日(金) - 2月12日(土)  
主催／静岡市クリエイター支援センター

タイトル：  
NCC 2011 展覧会企画公募 EXHIBITIONS  
『あなたはいま、まさに、ここにいる』 『美術の時間』  
会 期：2011年1月14日(金)-2月12日(土)(日・祝日休み)  
開場時間：10:00-20:30  
会 場：静岡市クリエイター支援センター  
2F ギャラリー・3F 展示室  
主 催：静岡市クリエイター支援センター  
審 査 員：しりあがり寿(マンガ家)、五十嵐太郎(建築家)  
CCC:久米英之(プロデューサー)、大森久美(キュレーター)  
入 場 料：無料

関連企画：  
「あなたはいま、まさに、ここにいる」ギャラリートーク  
2011年1月21日(金) 18:00-20:00  
「美術の時間」ワークショップ  
会期中の毎週土曜日 11:00-19:00の間随時

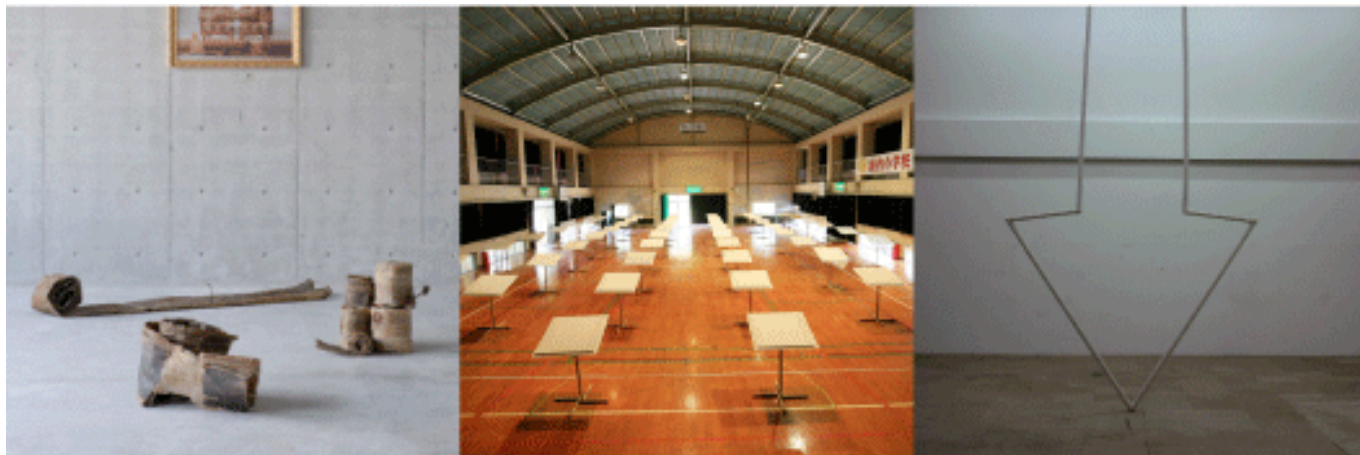
### ■本展についてのお問い合わせ

静岡市クリエイター支援センター CCC  
〒420-0853 静岡市葵区追手町4番16号  
tel: 054-205-4750  
e-mail: info@c-c-c.or.jp  
website: www.c-c-c.or.jp/



# 『あなたはいま、まさに、ここにいる』

企画者：小田原のどか（東京）



## □コンセプト

一作家のつくりだす作品とは《もう一つの場所》へと我々を立たせるための装置である—このような作品が私たちに投げかけること、それは「あなたはいま、まさに、ここにいる」という体験です。今日身体感覚以外で《この私》が今まさにここに在る実感を得ることはますます少なくなっています。だからこそいま美術の必要とは—我々はどこにいるのか、ここはどこなのか—という問いについて考える機会を設けること自体にあるのだと思います。本展「あなたはいま、まさに、ここにいる」では、現実の世界と重なるもうひとつの世界のありようを独自の方法論によってかたちにしようと試みる3人の作家、大久保具視、小田原のどか、原美湖の新作を中心に紹介します。(小田原のどか)

## □参加作家：小田原のどか、大久保具視、原美湖

### □審査員講評

小田原のどかは、自分も含む、三人の作家によるアンサンブルを企画している。「あなたはいま、まさに、ここにいる」というタイトル案は、小田原本人の作品ともっとも相性が高い。ただし、このコンセプトと他の二人、すなわち大久保具視、原美湖の作品との関係は、まだ完全には定義されていない。しかし、個人的に原のポンドが使って、モノを剥がしていく手法は、とくに興味深く、是非実物を見たいと思わせる強度を感じた。異なる切り口の作家が集まることで、関心の入り口が増えることは、グループ展の魅力だろう。さらに今回の組み合わせが、おおきな相乗効果を生むような展示が完成することを期待している。(五十嵐太郎／建築評論家・建築史家)

今回の「場」をテーマにした展示は、個性も作風も違う3人の作家がそれぞれ鉛筆や消しゴム、アスファルト、テキスト等、様々な素材や形態の作品を持ち寄り一つのテーマに挑むという意欲的な展示です。3人の個性がCCCというひとつの場に集まった時、そこにどのような新たな「場」が現れるか、期待して見守りたいと思います。(しあがり寿／漫画家)

## □プロフィール：小田原のどか（おだわら のどか）

1985年仙台市生まれ、2008年3月多摩美術大学彫刻学科卒業、2010年3月東京芸術大学大学院先端芸術表現専攻修了。トキョーワンダーウォール立体部門入選（2008年、東京都現代美術館）、第12回岡本太郎現代美術賞入選者展（2009年、川崎市岡本太郎美術館）「ノーネーム」展企画（2009年、横浜 Zaim / 京都・旧立誠小学校）先端卒業／修了制作 2010 の会場構成代表を担当（yokohama Bankart）等。

<http://www.ima-koko.info/>

## ■関連企画

### ギャラリートーク

2011年1月21日（金）18:00-20:00（無料 / 要予約）

場所：CCC2Fギャラリー（本展会場）

内容：映像作家の佐々木友輔氏、美術作家の平嶺林太郎氏をゲストに迎え「いま、作家が展覧会をつくらうとすることについて」を中心に語り合う。

### アートプログラム「ぼくは外にいるね。」

開催期間：展覧会会期に準ずる

開催地：東京駅から静岡市クリエイター支援センターまでの各地（駅、サービスエリア）

内容：スマートフォン（iPhone等）や携帯端末向けのアプリ「セカイカメラ」を用い、東京から静岡市まで鑑賞者を導いてゆく。

※ 詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.ima-koko.info/event.html>

# 『美術の時間』

企画者：高島亮三（東京）



## □コンセプト

私達は太陽の動きやお腹の空き具合で感覚的に「時間」を「体感」する事もあります。しかし、現実的には「時計」をもって論理的に「体感」しています。いざさか味気無い事かもしれません。しかし「時計」により「時間」という抽象的な概念が「誰でも見えるようになった!」と捉えた方が感動的ですし、その事で「より日常を楽しく過ごせる!」と思込むキッカケにもなります。本展では、機能的な「時計」の客観に美術家としての主観（思い込み）を取り入れた「美術的観点から見た時間」（つまり「美術の時間」）を提案。静寂感漂う場、研ぎ澄まされる感覚、作品のささやかな「音」や「動き」、それらに対峙する「今この瞬間の自分自身」を感じられる「時空間」が、あなたをお待ちしています。（高島亮三）

## □審査員講評

高島亮三の作品は、コンセプチュアルでありながら、とてもシンプルで、わかりやすい。グラフィックデザインを学んだ経歴もあり、関連するヴィジュアルも手を抜かない。こうした公募にも慣れている、力のある作家だ。過去に大量のサイコロを用いた作品を見たことがあったが、やはり一目で忘れがたい印象を与える。今回は、以前から手がけていた時計のシリーズを発展させた、2011台の時計を軸にした展示だ。安心してまかせられると感じた。一方で、2011台の時計やシチズンの普通の時計を、どのように効果的に見せるかは、まだ検討の余地があると思う。最終的に、どのように展示するのかを楽しみにしたい。（五十嵐太郎／建築評論家・建築史家）

「秒」から「一生」にいたる個人的な歴史を時計に置き換えた「時」。人間の2010年の歴史を置き換えた「時」／そして何の変哲もない「標準的」な時。今回作者は今まで取り組んでいた「時」というテーマをより全体的にコンセプチュアルに表現することに挑みます。はたして会場で刻まれる「時」は見る者に何を残すか? 楽しみな展示です。（しりあがり寿／漫画家）

## □プロフィール：高島亮三（たかしま りょうぞう）

1972年東京都保谷市（現・西東京市）生まれ、1996年多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。2001年、セルフファンクラブ「カミスキー」開設。2010年、セルフイベント「0円均一週間」開催。

<http://www.kamisky.jp/news/index.html>

## ■関連企画

ワークショップ「How to make "LIFE TIMER"」

会期中の毎週土曜日

（2011年1月15日・22日・29日・2月5日・12日）

11:00-19:00の間随時（参加費・材料費無料／予約不要）

場所：CCC3F

## 静岡市クリエイター支援センター (CCC) へのアクセス



■ JR 静岡駅から  
徒歩 10 分 / タクシー 5 分

■ 自動車利用  
東名高速道路で静岡 IC から 15 分

■ 新幹線  
新幹線で JR 品川駅から 1 時間 (ひかり)、JR 静岡駅下車  
新幹線で JR 名古屋駅から 1 時間 (ひかり)、JR 静岡駅下車

静岡市クリエイター支援センター (CCC)  
〒420-0853 静岡市葵区追手町 4 番 16 号  
TEL. 054-205-4750 FAX. 054-293-4332  
MAIL. info@c-c-c.or.jp